

ふてしこ

7

'18
No.272

巡回通信誌



青の洞門

「恩讐の彼方に」

名誉院長 西 田 敬

やまくにがわ らくわんじ こうがい
山国川流域や羅漢寺は日田市の郊外に位置し、今更、知らぬでは批難轟轟の誹りは免れまい。菊池寛も、題材の「恩讐の彼方に」は云うに及ばず、青の洞門など、当地に縁ある小説家で知られるが、面白い事に、彼は高名なる数学者、小平邦彦の労作「幾何への誘い」の末尾にも登場する。曰く、「三角形の二辺の和は他の一辺より大きい」。之は中学で習った幾何学で唯一役に立つ定理である。本文中で小平邦彦先生は、犬でも知っている、と宣う。犬や猫が人間より伶俐であるか否かは、実は深淵なる生物学上の命題を抱えて居るが、小平先生はそんな些事には聊かも頓着無

ただ、唯、数学の一分野を只管に解り易く述べたに過ぎない。英語教育は小学生時から始めるのが望ましい。文科省など日本人の英語教育に、厭に熱心で、御蔭様で頓珍漢な大人が蔓延ってきた。言葉は文化で民族の歴史。然らば禪は英語で何と云うのか。そんな事も判らんで他民族との疎通性が適うの歎。

処で、芥川龍之介が何やら、思い詰めた顔付で、文芸春秋社に菊池寛を訪ねた事がある。日頃、然程迄付合いの無かった客人に留守居嬢は「所用で出かけて居ます」、素気なくも、木で鼻を括ったような対応。大体、留守番役の女性なんて言う存在は無愛想が相場。芥川の死後に、それを知った菊池は、芥川の心中を思い遣ってか、夫こそ地摺りをせん許に悔しがったという。

悲劇の種が「行き違い、擦違い」にあるのは「君の名」はから「冬のソナタ」まで女性の紅涙を搾涙する為の常套手段であるが、何、女性に限った事ではない。名月赤城山の国定忠治、或は石松三十石船を聴き直して御覧、男性の心の琴線をも掻き鳴らす堂堂たる見せ場を創る手段にも為り得る。男だって他愛もない。

